

図書館員のひみつの本棚 第128回

2017年の酉年にちなんで鳥がでてくる絵本をご紹介します。

『おとなしいめんどり』

ボール ガルドン／作 谷川 俊太郎／訳 童話館 1994年 1404円

<お勧め年齢>

乳幼児★★★ 小低学年★★☆ 小中学年★☆☆ 小高学年★☆☆ 中学生☆☆☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

むかし むかし ねこと いぬと ねずみと おとなしいめんどりが
いっしょの いえに すんで いました。
うちのなかの しごとは ぜんぶ おとなしいめんどりの しごと。
ねこと いぬと ねずみは ねてばかり。
あるひ こむぎの たねを みつけた めんどりは
しごとを てつだってくれよう
なんども ねこと いぬと ねずみに たのみますが
いつも いやだね いやだよ いやだな のへんじ。
さあ こむぎがそだち かりとって こなにしてい ケーキが やけました！
おいしい においに さそわれる ねこと いぬと ねずみ ですが…。

<子どもに手渡す時のポイント>

20cm×19cmと小さめの絵本ですが、文字も絵の一部となっているユーモラスで魅力的な絵と、繰り返すとテンポのあるストーリーは、おはなし会にもぴったりの絵本です。裏表紙にもあるように読んであげるのも4歳くらいからがよいのではないのでしょうか。

我が家の4歳の息子は、おとなしいめんどりではなく、いつも「いや！」と言っている自分をねこ達に重ね合わせ、自分の所業を棚に上げてめんどりに憤慨していました(笑)。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。